



November

活動報告

今、センターでは：

11月活動報告

- 11.7(土) 第4回 総合診療力向上講座 (府医会館・サンプラザ万助・田辺中央病院(健康管理センター6階)(中面をご覧ください。))
- 11.12(木) 第2回 プレントラスト会議「排泄支援Part」
- 11.17(火) 第3回 プレントラスト会議「食支援Part」
- 11.19(木) 第2回 京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～ (中面をご覧ください。)
- 11.22(日) 第2回 京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

新コーナー

知っておきたい！

在宅医療と介護保険

サポートセンターでは、毎日数々のお問合せのお電話をお受けしており、よくお受けするご質問を中心にこのコーナーへ毎月、掲載して参ります。

今月は『認知症対応型共同生活介護(グループホーム)や小規模多機能型居宅介護(宿泊に限る)への医療提供について』です。

センターに【グループホームや小規模多機能型居宅介護への医療提供(訪問診療や往診)は可能か?】というご質問が多く寄せられます。グループホームや小規模多機能型居宅介護は少人数単位で職員と共同生活を送る【高齢者住宅】に位置付けられており【自宅】とみなされます。また、医療従事者の配置が義務付けられていないため(小規模多機能型居宅介護は要看護職員)、訪問診療や往診の算定が可能です。同一法人の医療機関の医師が入所者の主治医となるケースもみられますが、入所者のニーズに対応し、今までの主治医(かかりつけ医)が訪問することも可能です。

	初・再診料	往診料	在宅患者訪問診療料	在宅がん医療総合診療料	在宅患者訪問看護・指導料 訪問看護療養費
グループホーム					
小規模多機能型居宅介護(宿泊サービス限定)	○	○	○	○	○ <small>※厚労大臣が定める疾病等と急性増悪時に限る</small>

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

京都府医師会

# 在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news

Vol. 7

2015年12月1日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター  
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

## 在宅医療と認知症

高齢者医療を地域で支えるにあたり、身体的な問題のみならず認知症を合併されていることが少なくなく、本人の治療や生活、財産管理や自身の願望など、意志を決定する能力が障害され、在宅での医療をより困難なものとしています。さらに、最近では独居老人の問題や希薄な家族関係、経済的問題などからも治療の選択は制限され、問題が深刻になってから顕在化することも多く見受けられ、初期の段階での気づきから医療へのつながりが求められています。

また、高齢者医療は個人だけの問題ではなく、生活の中で家族や近隣の方々などの地域に支えられており、とりわけ認知症が併存するといわゆるBPSDによって周囲との関係が悪化したり、家族のストレスも増大して虐待を引き起こしたりするなど様々な社会的な問題が生じてきます。

私自身の経験としましては、認知症の治療で困難なケースであっても、本人や家族の意向によって在宅で経過をみることもありましたが、家族や介護・看護など地域の協力・連携により何とか在宅で安定することができ、その地域の包容力に何度も助けていただいた経験があります。

地域で支えようとすれば、必然的に多くの医療機関や多職種の皆様の協力をお願いすることになりますが、そのことが一層連携を深め、私自身の経験はより豊かなものになっています。むしろ、より地域での連携が行いやすくなり、これまで行き届かなかった問題に対しても様々な関係者の方々の協力を得て、生活から医療まで広がりをもったケアが行えるように感じています。

もちろん、在宅医療が何もかも良いというわけではなく、地域医療の背景には病院の存在が必須であり、病院・診療所・地域との連携の中での地域医療であり、その地域の特性に応じた医療体制が求められています。

認知症の方々を追い詰めるのではなく、本人の意向に寄り添いながら、本来のその人らしいあり方や尊厳、居場所や役割、安全・健やかさ、なじみの暮らしの継続などを保ちながら、地域で見守り、支え、その方の生の終末を見届けていける社会でありたいと思います。



京都府医師会 理事 近藤 久勝

## 第3回 京都在宅医療戦略会議 開催報告



宇治久世医師会 門坂 庄三副会長

10月31日(土)第3回 京都在宅医療戦略会議を府医にて開催し、22地区医師会から28名の担当理事にご参加いただき、各地域での在宅医療を推進する上で重要な2つのテーマ「地域医療介護総合確保基金を活用した事業」、「地域医療構想」について、参加者との意見交換を行いました。

「地域医療介護総合確保基金を活用した事業」については、宇治久世医師会副会長 門坂 庄三先生から宇治久世「医療介護連携推進プロジェクト」の概要と事業展開をご紹介いただきました。

宇治久世「医療介護連携推進プロジェクト」は、事務局を宇治久世医師会に設置し、専任スタッフ3名(有資格者)を雇用、月1回の多職種による戦略会議を中心に、地域の課題を抽出し、諮問委員会として宇治市、城陽市、久御山町の基礎自治体の協力を得て、医療介護連携と地域包括ケアシステムの実現に向けて取組まれていると概要を説明後、「医療介護連携推進プロジェクト」8つの事業をそれぞれ紹介いただきました。

- A ふかまる・つながる事例検討会の開催
- B 在宅医療ネットワークの充実
- C 在宅主治医紹介システム
- D 看取り対策プロジェクト
- E 認知症診療の充実 (やましる認知症地域ケア連携協議会・認知症懇話会)
- F 医療資源情報共有
- G 医療・介護の研修の実施

このプロジェクトは、今後展開していく取組であるとし、「地図なき道を進んでいるようなもので、『共感・共生のあふれるまちを』を合言葉に活動しており、2025年問題や高齢者問題に留まらず、長期的観点で持続できる体制を作らなければならない」との意気込みを述べられるとともに、地域包括ケアシステムは医療と介護を維持する為の基本デザインとして考えるべきで、その基本は在宅でありかかりつけ医の果たす役割は非常に重要であるとの考えを示されました。

続いて、「地域医療構想」については、京都府医師会地域医療構想担当 城守 国斗理事より「1.地域医療構想の医療機能の単位について」「2.地域医療構想の進捗状況」「3.地域医療の問題点、在宅に向けてどう考えていくのか」について、国が示したガイドラインとデータを基に解説しました。

府医としては、地域医療構想への対応として、医療機能の定義(病床区分)の妥当性や、将来の医療需要の推計方法と必要病床数算定式の根拠が不十分であるなどの問題点を踏まえた上で、過剰病床削減を目的とするのではなく、医療の提供体制をもう一度考え直す機会として、現場の医療が混乱しないよう不足する医療機能を補うものとしていきたいと述べました。また、在宅医療等の整備に向けては、各地区医師会においての在宅医療(介護)需要の現状

意見交換の様子

把握と議論が必要であるとの考えを示し、各地区医師会のご理解・ご協力をお願いしました。

意見交換では、認知症初期集中支援チーム、各地区での在宅医療の現状や問題点、在宅医療提供体制のシステム化、地区における在宅医療(介護)の現状把握など、様々なご意見をいただきました。会議内の短い時間の中では十分な議論が困難であり、今後は京都在宅医療戦略会議メーリングリストを活用し、議論の充実を図ることとしました。

最後に、北川副会長より在宅医療の需要と供給をどうするのかという大きな問題と医師会の役割の2点を今後もこの京都在宅医療戦略会議のメインテーマとして続けていきたいとし、次回の開催についてテレビ会議システムを活用した参加も含めた協力を呼び掛けて会を終了いたしました。

## 第4回 総合診療力向上講座 開催報告



京都府医師会館310の様子



南部会場(TV会議システム)の様子

北部会場(TV会議システム)の様子

11月7日(土)京都府医師会館310会議室、北部会場・サンプラザ万助ペルラの間(TV会議システム利用)、南部会場・石鎚会田辺中央病院クレインホール(TV会議システム利用)にて開催しました。

第3回に引き続き「心因性疾患の身体所見」について、洛和会丸太町病院 救急総合診療科医長 上田 剛士先生にご講演いただき、心因性めまい、けいれんについて等、器質性疾患との鑑別について、動画や写真を交えて診断のPointを解説され、日常の診療で悩まされる心因性病態の鑑別に大変役立つ内容の研修会でした。今回をもちまして、全4回シリーズの研修会は終了いたしました。

各研修会の参加状況は、第1回228名、第2回168名、第3回164名、第4回126名で、のべ686名の医師にご参加いただきまして誠にありがとうございました。また、67名の先生が1~4回すべてに受講いただきました。

受講後ご協力賜りましたアンケートの結果も下記の通りであり、参加者の満足度の高い今後の診療に役立つ研修会であったことが伺えます。

「講義内容に満足されましたか」満足、やや満足が88.7%  
「これからの診療に変化があると思いますか」思う、やや思うが74.2%  
(平均回収率68%)

あらためまして、素晴らしいご講演をいただきました洛和会丸太町病院 救急総合診療科医長 上田 剛士先生に厚く御礼申し上げます。

来年度も、京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンターでは、アンケートでもいただきました皆様のご意見を基に、在宅医療だけでなく様々な診療場面で役立つ総合診療力向上講座を開催いたします。是非、ご参加ください。

## 認知症サポート医フォローアップ研修会(北部会場) 開催報告



第二北山病院 占部 新治先生

京丹後市立弥栄病院 竹村 学先生

京都協立病院 門 祐輔先生

10月24日(土)宮津市中央公民館で開催され、基調講演で第二北山病院 占部 新治先生に「認知症の視覚世界-リハビリへの応用」をご講演頂き、認知症サポート医9名、かかりつけ医7名、地域包括支援センター4名、行政1名の参加でグループディスカッションを行いました。

サポート医からの症例発表で、京丹後市立弥栄病院 竹村 学先生から『嗜銀顆粒性認知症』、京都協立病院 門 祐輔先生から『ユマニチュードを基礎とした取り組み』をご発表になりました。南部会場は平成28年2月13日(土)、府医会館にて開催を予定しております。

## 第2回 京都在宅医療塾Ⅱ ~実践編~ 開催報告

第2回 京都在宅医療塾Ⅱ ~探究編~  
開催報告は次号でさせていただきます。



基礎講義の様子

展示ブースの様子



実技演習の様子

第1回に引き続き、「在宅での輸液について」をテーマに開催し、三菱京都病院放射線科部長 大田 豊承先生に「最新のCVポート管理」について、たなか往診クリニック院長 田中 誠先生から診療報酬も含め具体的な「在宅での輸液」について、訪問看護師 松久保 眞美さんからは、「患者・家族への指導ケア」について、それぞれ講義いただきました。

訪問看護認定看護師及び講師がファシリテーターとなりCVポート針・静脈留置針の穿刺と固定の演習を行い、演習後は在宅医療での抗生剤の使用方法等について活発に意見交換が行われました。

1月21日(木)、2月18日(木)開催の第3回・第4回研修会はシリーズ第2弾として、「在宅での呼吸管理について」をテーマに、実技を取り入れた研修内容で、人工呼吸器を使用した在宅療養者への治療・ケアに役立つ内容となっております。是非、ご参加ください。

12月15日より申込受付を開始いたします。詳細は、医報、サポートセンターHPをご覧ください。